

COVID-19 流行下における FilmArray を用いたその他病原微生物の同時検出状況の報告

◎大柳 忠智¹⁾、高橋 儀行¹⁾、黒沢 未希¹⁾、永田 恵理¹⁾、茨木 智晴¹⁾、吉田 真紀¹⁾、赤津 哲¹⁾、山崎 哲¹⁾
聖マリアンナ医科大学病院臨床検査部¹⁾

【はじめに】FilmArray システム (FA) による検査は、簡易な検体処理のみで目的とする十数種類の病原微生物の遺伝子を全自動で検出することが可能である。呼吸器パネル 2.1 は 2020 年 7 月に保険適用が承認されて SARS-CoV-2 遺伝子の同時検出可能となったため、多くの施設にて検査が実施されている。今回、COVID-19 流行下における FA 呼吸器パネルを用いたその他病原微生物の同時検出状況を報告する。

【対象】2020 年 8 月から 2021 年 9 月に COVID-19 疑いもしくは入院時・手術前スクリーニング検査の目的で FA 呼吸器パネル 2.1 にて検査を実施した鼻咽頭拭い液 6029 検体を対象とした。

【結果】対象 6029 検体のうち SARS-CoV-2 陽性検体は 6.2% (375/6029) で、SARS-CoV-2 以外の 18 項目のうち 1 項目でも陽性となった検体は 4.1% (250/6029) であった。内訳は重複を含みアデノウイルス陽性 17 検体、SARS-CoV-2 以外のコロナウイルス陽性 35 検体、ライノ/エンテロウイルス陽性 140 検体、パラインフルエンザウイルス陽性 46 検

体、RS ウイルス陽性 68 検体、マイコプラズマ陽性 2 検体であり、インフルエンザウイルスや百日咳菌等の検出症例は認められなかった。SARS-CoV-2 陽性 375 検体中、その他病原体同時検出検体は 1.8% (7/375) あり、内訳はアデノウイルス陽性 2 検体、ライノ/エンテロウイルス陽性 1 検体、パラインフルエンザウイルス陽性 2 検体、RS ウイルス陽性 2 検体であった。ライノ/エンテロウイルスと RS ウイルスは小児から検出されることが多く、10 歳未満の比率はそれぞれ 63.6% (89/140)、64.7% (44/68) であった。

【まとめ】COVID-19 流行期であっても多くの種類のウイルス感染症症例が発生していた。また COVID-19 とその他の病原微生物との同時感染は比較的少なく、危惧されていたインフルエンザウイルスとの同時感染症例は認められなかった。FA 呼吸器パネルによる多項目遺伝子検査は、特に小児での検出頻度が高いウイルスとの鑑別や、救急外来など臨床症状による COVID-19 感染症の鑑別が困難である場合に有効な診断結果となり得ると考えられた。

連絡先 044-977-8111